

発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広報部

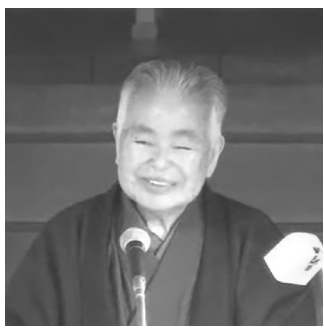
年間活動目標  
創立110周年に向かって  
今日を陽気に。  
おつとめ おたすけ ひのきしん

### 6月神殿講話から

南大教会役員  
松谷武一先生

立教185年6月月次祭の神殿講話には、南大教会役員・松谷武一先生が登壇された(写真)。92歳の松谷先生は講話の冒頭、安藤正吉初代会長の貴重な思い出をお話しくだされた。一部を要約して掲載する。

中学生3年生の頃、私は母に連れられて帰ったおぢばで、本愛大教会の初代会長様にお目にかかった記憶がございます。まだ終戦から間もない頃で、多くの人が国民服を着ていましたが、



安藤正吉先生も薄い茶色の洋服を着ておられました。母は何やら涙ながらに話を聞いていただいでいて、安藤先生はそれを優しくげにニコしながら聞いてくださっていたように記憶しています。

安藤先生は、明治43年4月に初席を運んでおられます。これは当時東本分教会の上級であった南大教会から運ばれたものでした。そのとき一緒におぢばへ帰った48人の方と一緒に、高安

大教会を参拝し、そしておぢばへ参拝された記録にございます。

それから約7年後の大正6年6月、当時の南大教会長が会長就任に先立って別科に入ることになり、その間、南大教会の会長代理を中川よし先生が1年間務めることになったそうです。

その時、高安大教会長様のご指示でよし先生と共に南大教会の留守番役を務められたのが本愛宣教所の所長であった安藤先生でした。

しかし、当時南大教会では東本分教会が分離・陞級することをよく思わない人もいたようで、安藤先生は非常に冷たい扱いをお受けになったそうです。その頃南大教会では、朝食の後は夕

方まで皆毎日にいがけに歩いており、安藤先生も思うところはあったでしょうが、毎日皆と一緒に大阪の街でにいがけ・おたすけに歩いておられたようです。

おたすけの道中では、私の教会に立ち寄っていたこともありました。その時の様子を母は「羽織の紐が紙のこよりだったことが忘れられない」と後年何度も語っておいりました。きっといろいろなご苦労がおりになったことと推察いたします。

その後昭和23年には本部の神殿おたすけ掛に登用され、私もご挨拶に伺ったことを昨日のことのように思い出します。本愛大教会に寄せていただいた機会に、本題の前に一言思い出話をさせていただいた次第です。

(神殿講話の内容はYouTubeからご覧になれます)



### 8月のこよみ

- 入社祭 1日 午前10時
- よふき会例会 2日 午前10時
- 月次祭 13日 午前10時
- 布教実修所 14日 午前10時
- 青年会女子青年合同例会 14日 午前10時
- むつみ会例会 16日 午前10時
- こども食堂MOGU 17日 午後5時
- 婦人会例会 20日 午前10時
- ほんあいOKEIKO 21日 午前10時
- こはる会例会 24日 午前10時
- 本部月次祭 26日 午前9時
- 夏休みこどもひのきしん (於・教会本部) 7月26日～8月28日

# 現代に生かす

## 「用木の道」

文・安藤吉人



今回はみかぐらうたの第三節「あしきをはらうてたすけせきこむ いちれつすましてかんろだい」について考えてみたいと思います。安藤正吉初代会長様は、このお歌について以下のよう

「昔は『一れつすますかんろだい』とお言葉があったのであるが、『すましてかんろだい』と改め下されたのであり、我々人間は、毎日人よりほこりを積みぬよう、人にほこりを積みせぬよう、そして今まで積んだほこりを掃除せねばならぬ責任を持つているのである」

心は「澄ます」ということは、まさに心を掃除するということと同じでしょう。

初代会長様はさまざまな場所で、時に厳しく、この心の「掃除」の重要性を問いておられることを、まずは心に留めておきたいと思います。

### おぢばと教会との違い

この第三節は、おぢばで勤められるかぐらぶとめでは21回繰り返します。しかしご承知のとおり、各教会では、3回を3回の計9回勤めます。

これはなぜなのでしょう。この点について、教祖のお側に仕えておられた高井猶吉先生は、人間の体



の九つの道具（目、鼻、口、耳、両手両足、男女一の道具）を使うについて「神様の御恩を忘れぬように、この九度のつとめをする」のだと書いておられます（『猶吉翁教話録』）。

それでも疑問は残ります。なぜおぢばでは21回なのでしょう。実は二代真柱様は、両者には明確な違いありとお示しくださっていたそうです。

それは教会のおつとめは「感謝」であり、かぐらぶとめは「祈願」であるという。だから、勤める人も道具も含めて、「理が違おう」とお示しくださっていたと、後年ある先生が語っておられます。

### 大きく腕いっぱい

第三節では、両の手の平を下に向けてぐるりと回します。初代真柱様（写真）はこのお手を「きちんと両手をそろえて、大きくそし

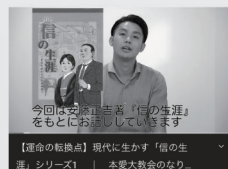
てゆっくりと『いちれつ』とお廻しになる。（中略）高低に波打つようなこともなく、一枚の平たい板をなぞるみたいに、膝の上四、五寸のところできく円形に動くのであって、それがいかにもゆつたりとした感じであり、そして人一倍大きい円形が描かれていたように想った」とある先人の先生が語っておられます。

「すまして」の際の手振りも同様に「高低の波なく大きく腕いっぱい左右に開かれ」ていて、それはまるで「さあくすつきりろくじにふみならずで」と仰せられた教祖のお言葉を「ぢかにお見せいただいているよう」だったと振り返っておられます。

私を含め、毎日何気なく勤めてしまいがちなおつとめですが、その手振りに込められた教祖の思召を、少しでも味わわせてもらいたいです。

## 連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！  
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、  
より理解が深まります！



チャンネル登録

【運命の転換点】現代に生かす「魂の生涯」シリーズ1 | 本愛大教会のなり

教理随想

言わん言えんの理を探る



明治天皇の崩御により大正と改元されたのは今から百十年前の出来事です。以後、昭和に至るまでの十五年間は、大正時代と呼ばれますが、これは日本史上で最も短い時代区分だといわれます。しかし、「大正デモクラシー」という言葉があるように、民主主義が栄えて自由闊達な風潮が生まれた時代でした。特に文学や芸術、また衣食住の面において、今日に続く大衆文化の原型が生まれた時代であるともいえます。

こうした新しい時代の幕開けと歩調を合わせるように、布教師としての第一歩を踏み出されたのが本愛の初代会長様です。深いいんねん自覚から事業家の道を捨て、天理教校別科に入学されたのが明治四十五年一月。そして半年後の別科修了と共に単独布教師として歩む決意を固められました。その数日後に明治天皇が崩御されて大正と改元。すなわち今年、初代会長様の布教決心から百十年目という節目に当たることになります。そして大正二年に名古屋で布教を開始され、翌三年に本愛宣教所を設立。以後は十年ごとに支教会、分教会へと昇格し、三十年目には本部直属の大教会へと分離昇級しました。

二年後の令和六年に創立百十周年を迎えようとする今、ようぼくが手本とすべきは初代会長様の道ですが、心の焦点を教会設立とその後飛躍という点に合わせようと、初代様と同じ道を辿ることはとても困難だと、多くの人は躊躇してしまおうでしょう。しかし初代様の精神に立ち返るとは、形や結果を真似ることではありません。ちようど百十年前に初代様は何を思い、なぜ単独布教の決意を固められたのか。この精神の奥底に心の焦点を合わせて、思案の抛り所にするのが肝心な点ではないでしょうか。

相次いで子供を亡くし、わらにもすがる思いで門をくぐった教会で、悪いんねんを断ち切るための方法の一つしかないことを諄々と諭されます。それが人をたすける実践の道でした。大正二年十一月、当時三十六歳の初代会長様が名古屋の駅に降立られた時、胸に去来した思いは何だったのでしょうか。それは、教会を設立して大勢の信徒に囲まれることでもなければ、大神殿を建築することでもありませんでした。そうではなく、「我が子、我が家族をたすけていただきたい」。これが脳裏から離れぬ唯一の願いだったと確信します。そして黙々と歩み抜かれた人だすけの道。かくて初代会長様の人だすけにかけられる誠の心が天に届いて、次々とご守護を頂戴してきたのが本愛の歴史であります。

人を救ける心は真の誠一つの理で、救ける理が救かるという。誠一つの心とは、嘘や偽りのない心です。それと同時に、我が身や我が家のこととを後に回してでも、人たすかかってもらいたいという心。これが誠として天に通じていくのです。折しも一昨年から続くコロナ禍で、多くの人が経済面・生活面で悪影響を受け、さらにロシア軍によるウクライナ侵攻も、長期化の様相を見せている昨今です。経済的な損失と打撃が、日本人の生活にまで及び、どちらも終息と復興までの道のりは遠く険しいと言わざるを得ません。そんな中で誠の心を強め、世界中の人々のたすかりと復興を祈っておつとめをつとめることは、今すぐに、そして誰にでもできる誠の心の実践です。「今日を陽気に」との活動目標に沿って心を治める傍らで、教祖百四十年祭に向かつて人だすけの誠の心を持っていきましょう。

【第 92 回】

初代会長様の精神を抛り所に  
人だすけの誠の心を培う旬

(おかきさげ)

婦人會

7月1日の入社祭祭典終了後、大教会長より、婦人会本愛支部委員の辞令が交付された。

委員 出口まつみ(本名)

長江まどか(本心)

板山はるゑ(本濱松)

安藤美恵子(本則武)

塚原 明美(本千原)

若杉二美代(本實愛)

大倉 喜香(本一心)

松浦よし江(本喜愛)

門田 和美(本理愛)

中島恵美子(本清明)

細川智恵子(本滋賀)

山内 昌恵(本尾州)

以上12名

修養科生教養掛

第970期

4月 澁谷喜久郎(本耕愛)

長江まどか(本心)

5月 野田 正樹(本晃)

加藤 ふみ(本高見)

6月 山下 常幸(本築港) 瀧 佳代(本孝心) 右の各氏が教養掛を務めた。

修養科第970期修了者

本心(本誠愛) 中村 加奈

” (本心徳) 山田 清香

本理愛 門田 理

本今村(本栃木) 須藤 勇喜

本春明 塚原 梓

” 塚原 杏

以上6名

6月のおさづけの理拝戴者

本心(本心徳) 山田 清香

本今村(本栃木) 須藤 勇喜

本春明 塚原 杏

以上3名

6月の初席者

本金山 松尾 星志

本岐愛 杉下 ひな

以上2名

本愛大教会 公式ホームページ開設!



https://hon-ai.org

大教会からのお知らせ 沿革、大教会へのアクセス 本愛誌バックナンバーのダウンロード

本枇杷島分教会三代会長 青木記美子之霊の三十年祭 本枇杷島分教会では6月25日午前11時より、三代会長・青木記美子之霊の三十年祭が同分教会で行われた。

本喜愛分教会二代会長夫人 松浦誠子之霊の一年祭

本喜愛分教会では6月25日午前11時より、二代会長夫人・松浦誠子之霊の一年祭が同分教会で行われた。

大教会日誌

令和4年6月25日~令和4年7月24日

6月

25日 修養科志願者面接(於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

30日 常任役員会議◇役員会議

7月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・田中新一、吉田克義 指図方・大倉八郎 賛者・安井 篤、長良英男

◇祭典講話一大倉光晴

2日 よふき会例会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・大倉八郎、板山眞一

指図方・安藤正二郎 賛者・塚原光男、杉下和平

◇祭典講話一美張分教会長・杉江健二先生

◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

15日 こはる会例会

16日 むつみ会例会

17日 女子青年例会

ほんあいOKEIKO(参加者50名)

こども食堂MOGU(参加者18名)

20日 婦人会例会